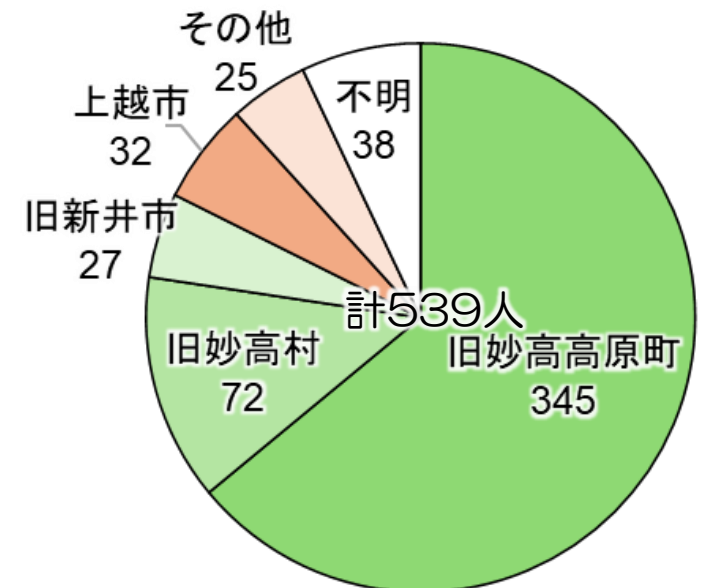


I. 妙高病院の現状について

① 妙高病院の利用者は、妙高市の方が82%を占めています。

- ・ 旧妙高高原町の方：64%
- ・ 旧妙高村の方：13%

居住地別 実入院患者数（R6年度）

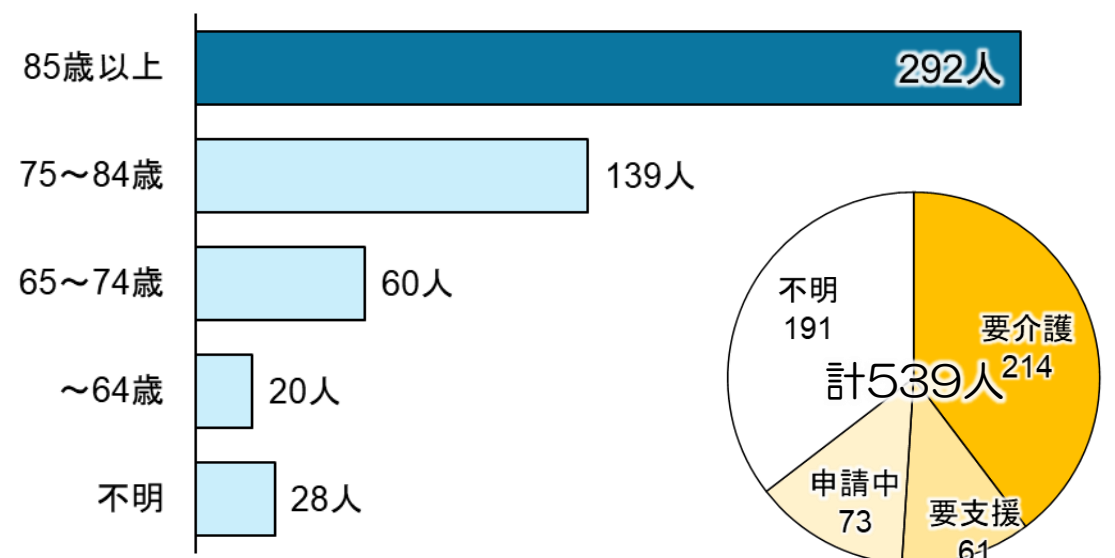


② 85歳以上の高齢者の方が入院患者の57.1%を占めています。

要介護・要支援認定を受けている方が3分の2を占めています。

※ 申請中の方を含む

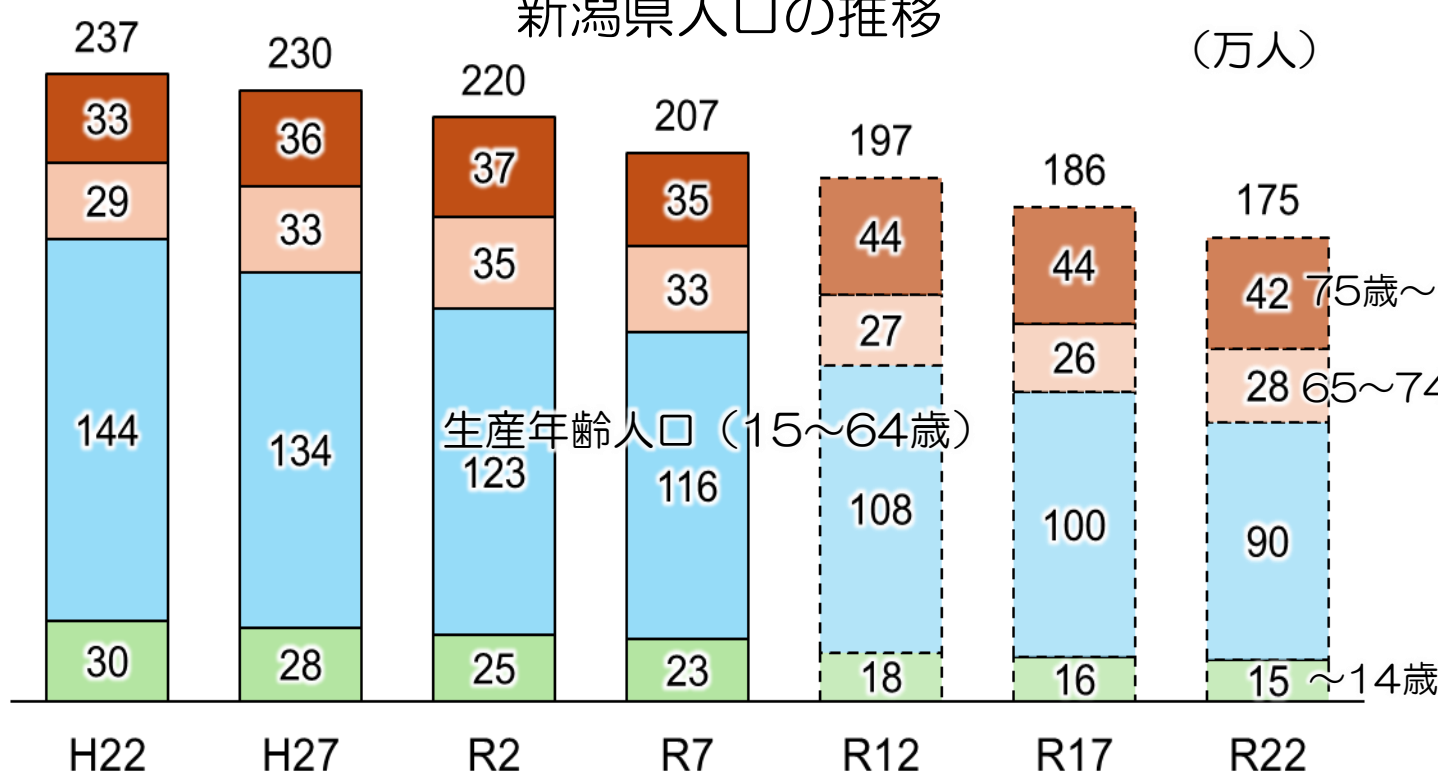
年齢別 実入院患者数（R6年度）



③ 生産年齢人口の急激な減少により、医師、看護師等の確保は、今後より一層難しくなる見込みです。

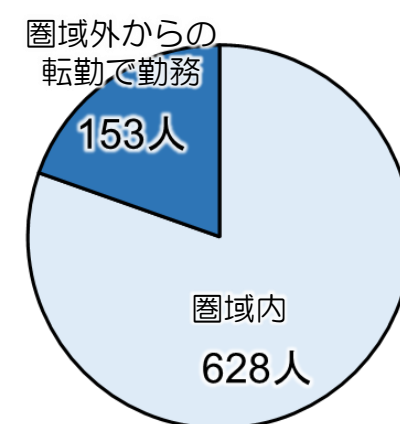
上越圏域の県立3病院は、圏域外からの転勤や遠距離通勤により医療スタッフを確保しています。

新潟県人口の推移



転勤職員が約2割

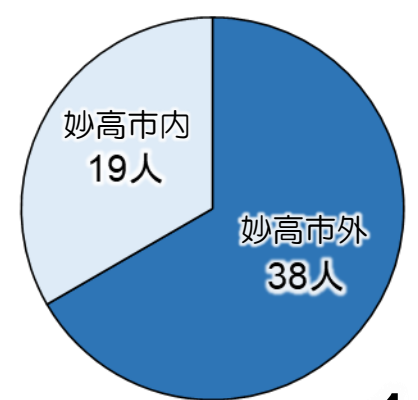
圏域内だけでは、看護師、薬剤師等のスタッフの確保が難しい



上越圏域3病院（妙高・中央・柿崎）（R7.4.1時点）

市外の職員が3分の2

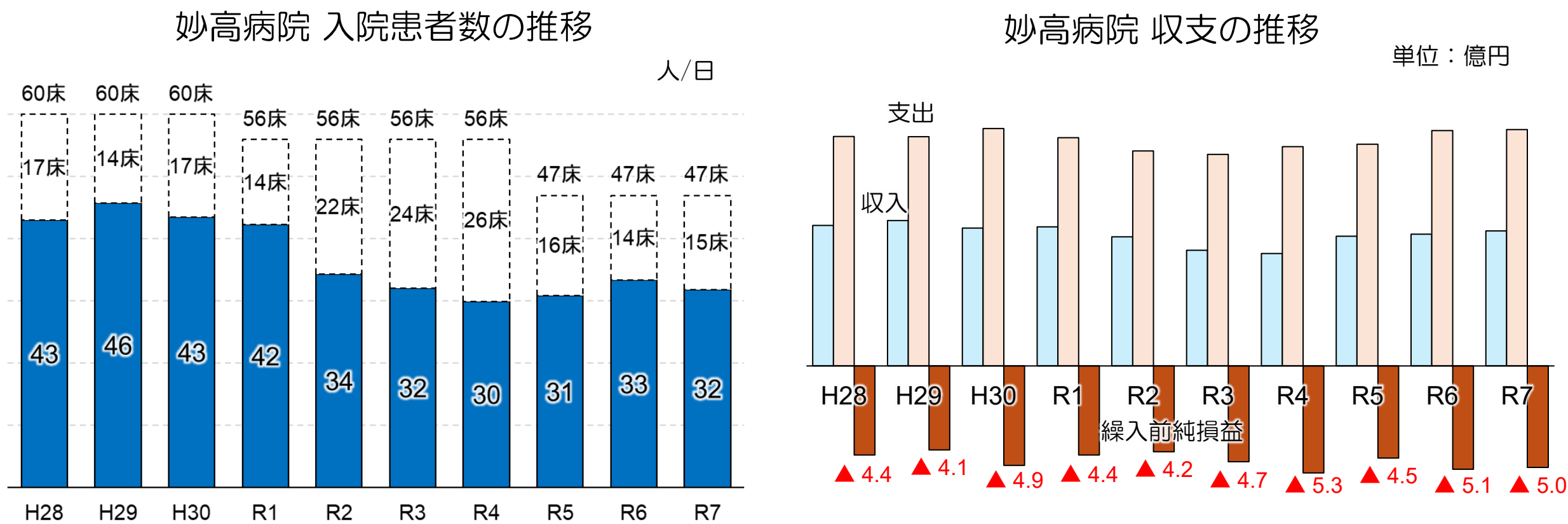
技師、薬剤師等は、救急患者受け入れ時の迅速な対応が難しい



妙高病院（R8.4.1時点）

※H22～R7は国調人口（R7は速報値で年齢別はR2の割合で算出）、R12以降は社人研推計人口

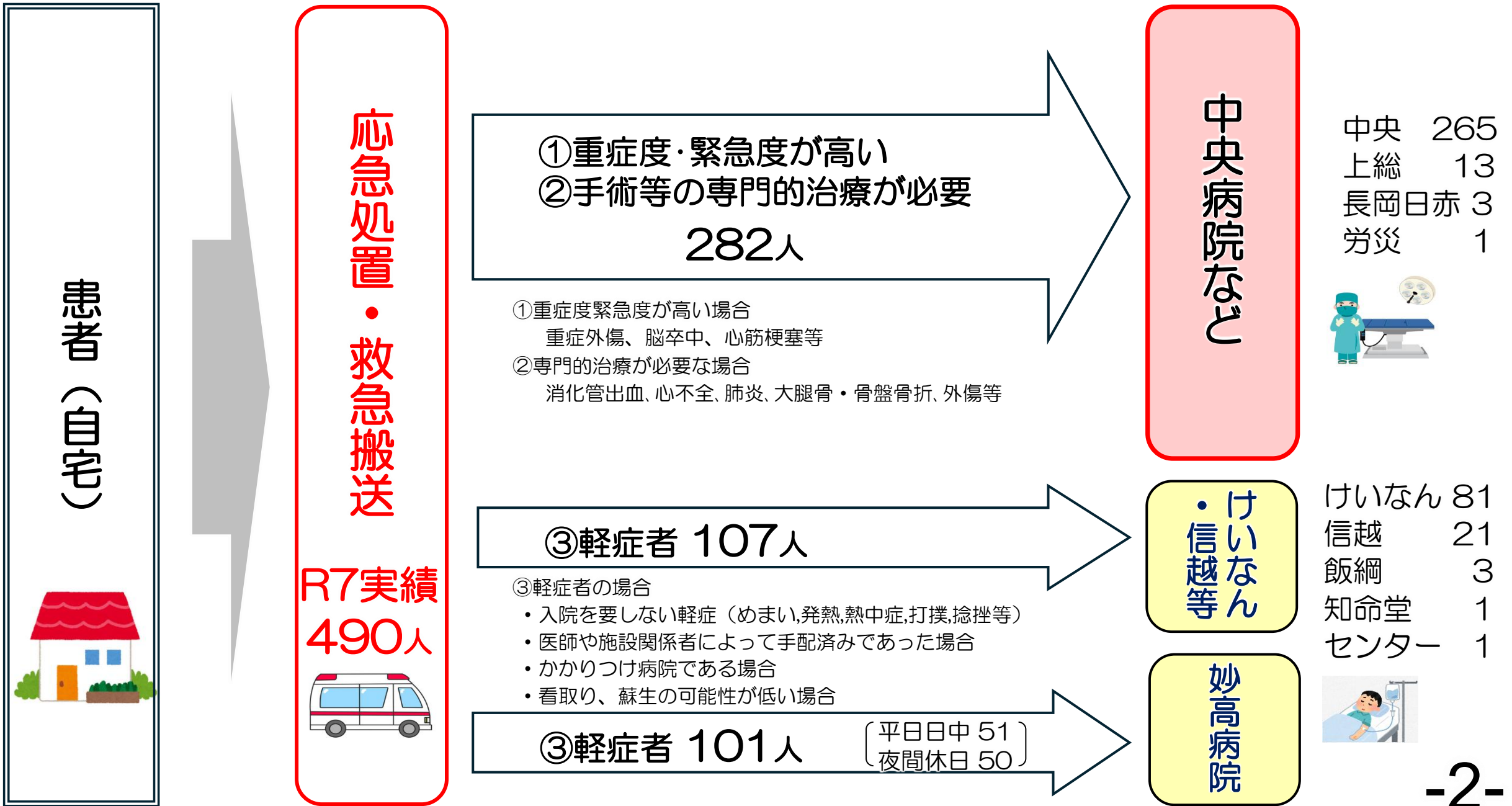
④ 地域全体の必要病床数が他病院で充足している状況や小規模病院の機能的な限界などから低い病床利用率（68.4％（R6.10～R7.9平均））が続いており、結果として収支は悪化傾向にあります。



2. 旧妙高高原町・旧妙高村の救急搬送の状況

- 旧妙高高原町、旧妙高村の救急搬送は頸南消防署が担っています。
- 重症度・緊急度が高い患者や手術等の専門的な治療が必要な患者は、中央病院等へ搬送されており、妙高病院には軽症者が搬送されています。

頸南消防署の救急搬送の状況（R7年度）出所：上越地域消防局



3. 妙高病院の現状・課題と今後の方向性について

【現状・課題】

●高齢化の進展、小規模病院としての機能的な限界

- ・入院患者の高齢化・多病化が進み総合的・包括的な対応が必要とされています。
- ・妙高病院のような小規模病院では、医療スタッフや設備の制約から対応できる診療範囲にも限りがあります。

●医療スタッフの確保

- ・生産年齢人口の急激な減少等により、県立病院も医療スタッフの確保が難しくなっています。
- ・上越圏域外からの転勤等により妙高・中央・柿崎病院の医療スタッフを確保していますが、その確保は今後より一層難しくなるおそれがあります。

●今後の持続可能性

- ・地域に必要な医療を提供し続けていくためには、収支も改善する必要があります。

【今後の方向性】

①妙高病院の病床規模の見直し

②外来機能をしっかり地域に残しながら、地域の身近な医療を支える拠点へ転換

※機能・規模の見直しに当たっては、入院患者等の受け皿の確保に加え、観光需要への対応も検討

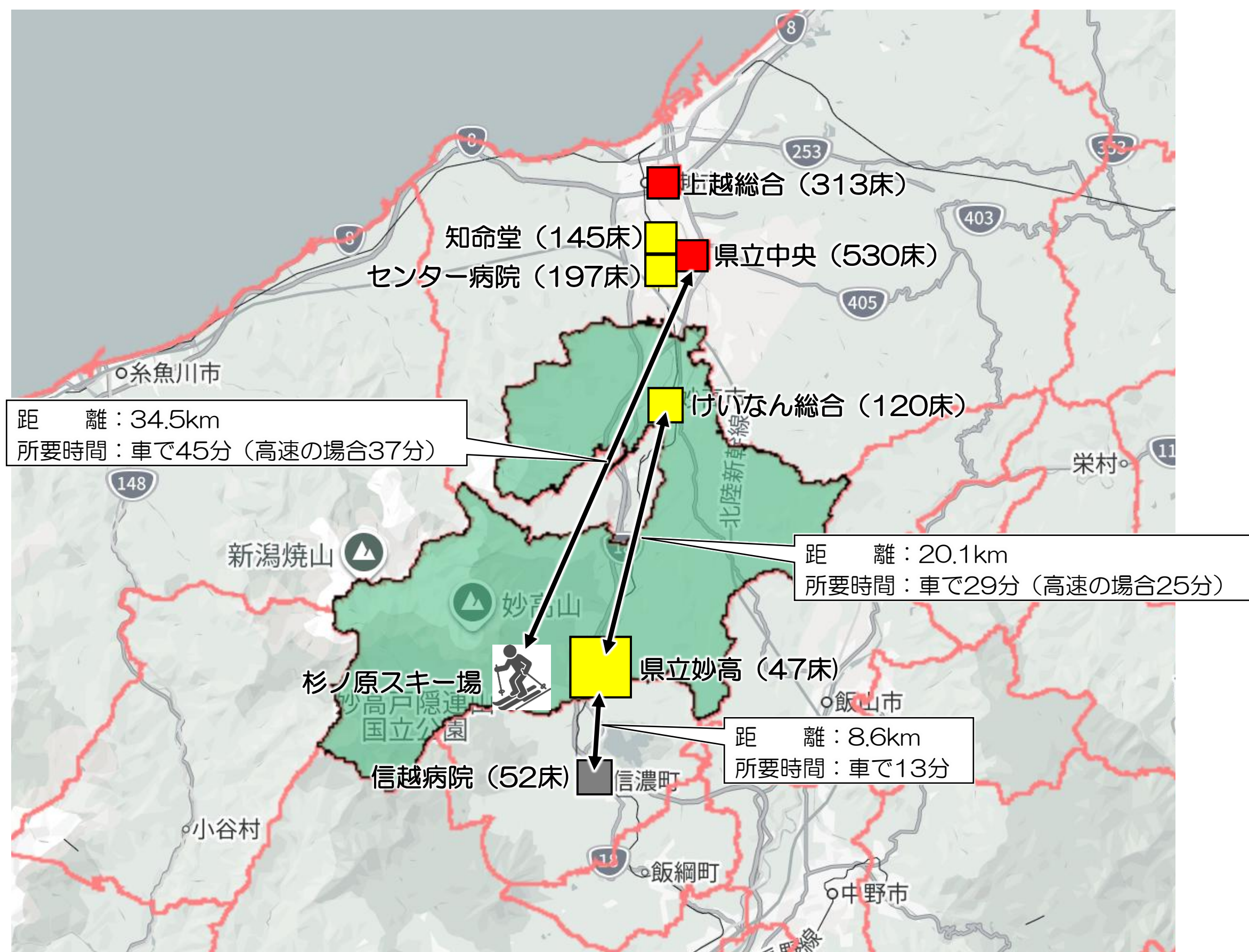
4. 妙高病院の機能・規模の見直しの考え方

- ・地域全体で必要病床数を充足していること、前述の現状・課題を踏まえて、最も適切な機能・病床数（～現状47床）を検討していきます。
- ・機能・規模の見直しの検討は主に次の3つの観点で行います。
 - ① 医療の質の確保（小規模病院としての機能的な限界、医療スタッフの確保）
 - ② 医療へのアクセス
 - ③ 今後の持続可能性

5. 周辺医療機関との役割分担

- 機能・規模の見直しに当たっては、周辺医療機関との役割分担により、地域全体で将来にわたり安心して医療を受けられる体制を構築していきます。

周辺医療機関の位置関係



※所要時間は目安であり、道路状況によって変わることがあります。

6. 今後の予定

- 今後も住民説明会を適宜開催し、住民の皆様への説明の機会を設けるとともに、上越地域医療構想調整会議で医療関係者等から御意見をいただきながら、検討を進めてまいります。
- 住民説明会での御意見や、上越地域医療構想調整会議での議論等を踏まえ、令和8年度中を目途に県としての考えを整理し、方向性を示したいと考えております。